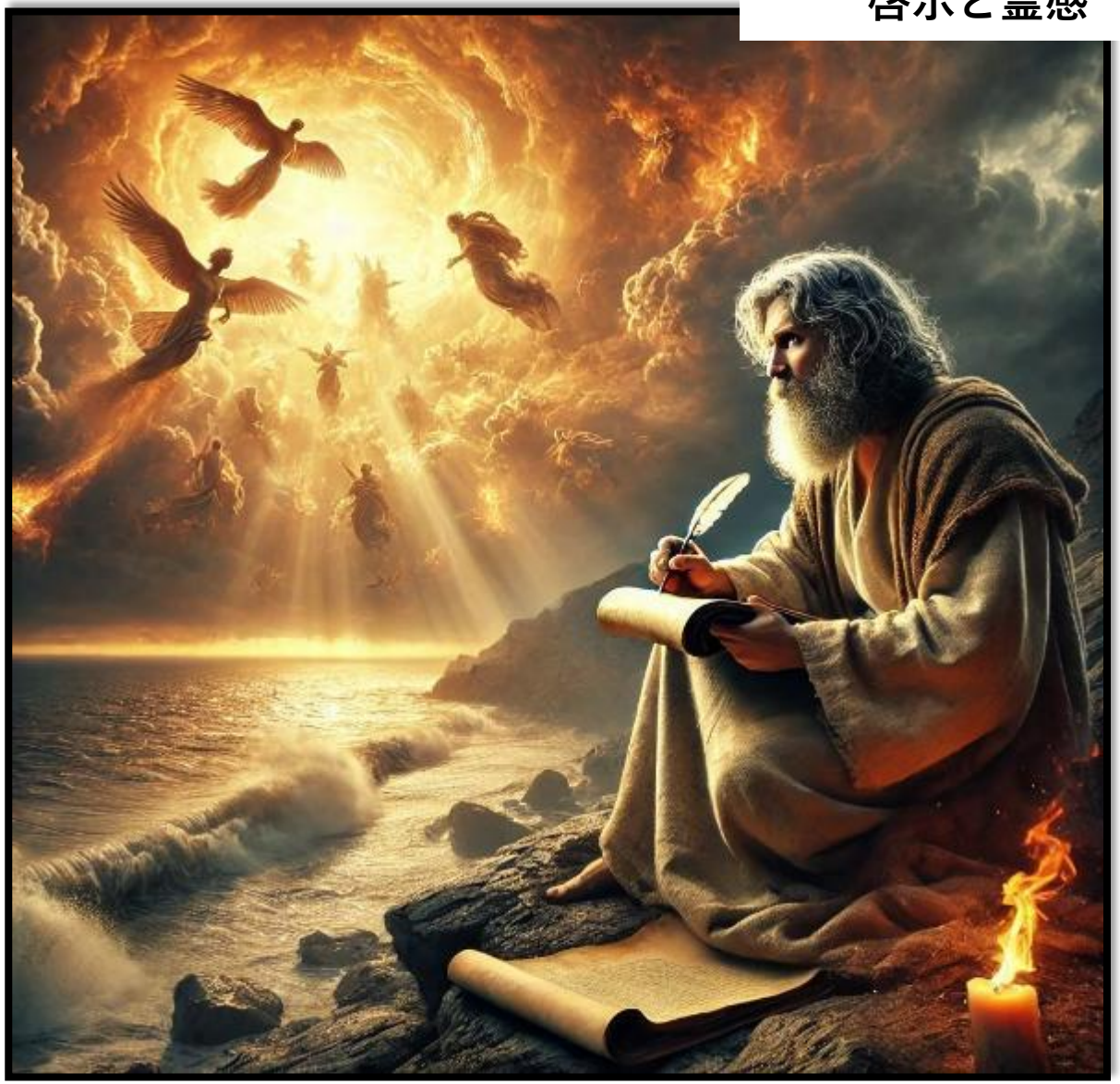
啓示と霊感



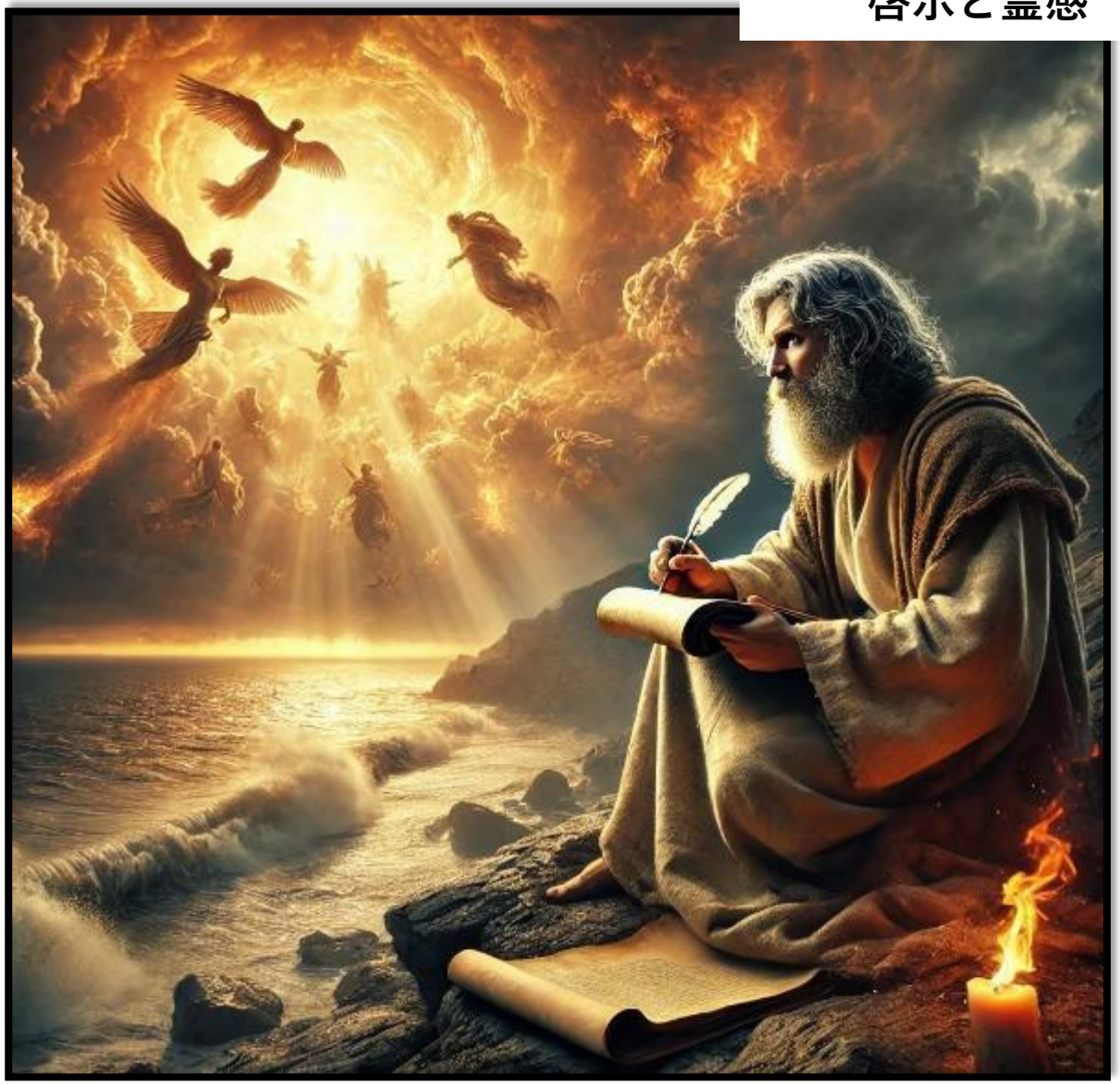
2026年10月31日
第5課

「イエス・キリストの黙示。この黙示は、すぐにも起こるはずのことを、神がその（しもべ）たちに示すためキリストにお与えになり、そして、キリストがその天使を送って僕ヨハネにお伝えになったものである。ヨハネは、神の言葉とイエス・キリストの証し、すなわち、自分の見たすべてのことを証しした。」
（黙示録1：1、２　新共同訳）



“「イエス・キリストの黙示。この黙示は、神が、すぐにも起こるべきことをその僕たちに示すためキリストに与え、そして、キリストが、御使をつかわして、僕ヨハネに伝えられたものである。ヨハネは、神の言（ことば）とイエス・キリストのあかしと、すなわち、自分が見たすべてのことをあかしした。」

（黙示録1：1、2口語訳）



『ヨハネの黙示録』1章1～2節には、神が預言者を通して私たちに御言葉を啓示される様子の一例が記されています：

神はイエスに、ご自身のメッセージを啓示される。 → イエスは天使にメッセージを明かす。 → 天使は預言者ヨハネにメッセージを明かす。 → ヨハネは受け取ったメッセージを書き留める。



しかし、これが神が預言者たちにご自身を現された唯一の方法というわけではありませんし、神のメッセージが彼らを通して伝えられた唯一の形でもありません。私たちは、神が預言者たちにご自身を現し、彼らに霊感を与えられたさまざまなあり方について学んでいきます。



- 啓示とインスピレーション：
  - 一般啓示と特別啓示
  - 霊感の過程
- 預言的伝達の手法：
  - 口頭によるメッセージ
  - 書き記されたメッセージ
  - 劇、象徴、たとえ



啓示
と
インスピレーション



一般啓示 と 特別啓示

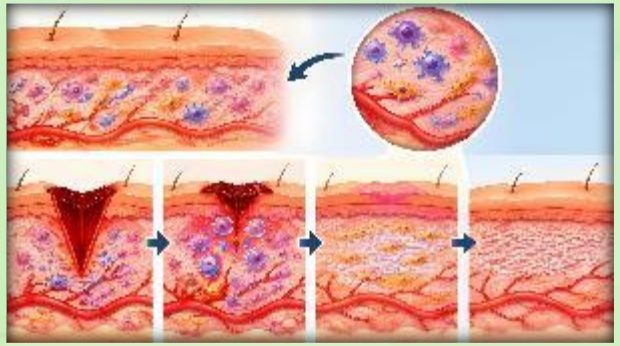
天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。
(詩編 19: 2)

主はこう言われた。「聞け、わたしの言葉を。あなたたちの間に預言者がいれば／主なるわたしは幻によって自らを示し／夢によって彼に語る。(民数記 12:6)



パウロは、神の存在を否定する者たちには「弁解の余地がない」と述べている。なぜなら、自然界が「神の目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性」を明らかに示しているからである（ロマ1:20、詩19:1）。
神が罪の入り込みをあらかじめ見越しておられたことは、生き物に備えられた「再生する力」から見て取ることができます。
私たちが傷を負うと、その傷を塞ぎ、組織を再生させるための仕組みが働きます。しかも、そうした仕組みは、傷を負うよりも前からすでにそこに備わっていたのです！

しかし、アダムとイブの堕落以来、自然界にも罪による影響（捕食、地震など）が見られる。



このため、神はご自身を知らせるために、より直接的な手段を用いられました。
それは、神の言葉である聖書に記されている通り、預言者たちやイエス・キリストを通した「特別啓示」です(ヘブ1：1.2)。



自然は確かに、創造主の力と愛が真実（本物）であることを示しています。
しかしそれ にもかかわらず、私たちはなぜこれほどまでに「書き記された御言葉(聖書）」を切実 に必要とするのでしょうか。
御言葉は、自然だけでは伝えることのできない、どのよ うなことを、私たちに教えてくれているのでしょうか。

霊感の過程

聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、
義に導く訓練をするうえに有益です。(2 テモテ 3:16)



何世紀にもわたり、神の御業やメッセージは口伝によって伝えられてきたが、
やがて神はモーセを感化し、それらの出来事や言葉を書き記すよう導かれた。



その時以来、神が残そうとされたメッセージは、「霊感を受けた」人々、
すなわち聖霊に導かれた人々によって書き記されました（2ペト 1:21）。
このことから、聖書は神の啓示のすべてを含む、唯一無二の書物となって
います。

インスピレーションを得るプロセスは、どのようなものだったのでしょうか？



幻や夢を通して
（民 12:6）



個人的な経験を通して
（1ヨハ 1:3）



歴史的研究を通じて
（ルカ 1:3）



神からの啓示によって
（2ペト 1:21）

聖書がどのように霊感を受けたか、あるいは
霊感そのものがどのように働くかについて
多くの疑問が残っているにしても、なぜ
私たちが聖書を神の霊感による言葉として
信頼することが重要なのですか
（たとえ聖書がどのように書かれたかを
完全に理解できなくても）。





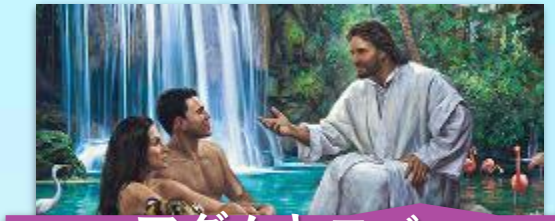


預言的伝達
の
手法

口頭のメッセージによる

彼はダビデと王の先見者ガド、預言者ナタンの戒めに従ってシンバル、竪琴、琴を持つレビ人を神殿に配置した。この戒めは主が預言者たちによってお授けになったものである。(歴代誌下 29:25)

神は４度にわたり、人々に直接語りかけられました：



アダムとエバへ
（創 2:16-17）



十戒が与えられたとき
（申 4:12）

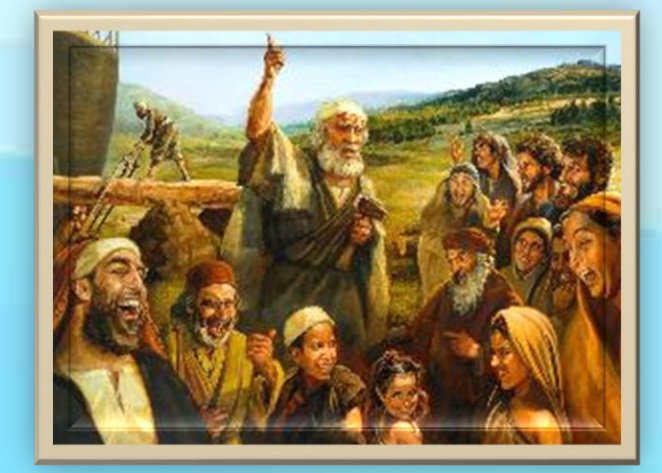


イエスの洗礼の時
（マタ 3:17）



変容の場面
（マコ 9:7）

一方、預言者たちは、神から伝えられた言葉を口頭で伝え、「エホバはこう言われる」と明確に述べた（士 6:8）。これらのメッセージは、ノアの場合と同様、必ずしも文書として記録されたわけではなかった。



多くの預言者の言葉は、他の人々の著述を通じてしか知られていませんが、彼らは自らのメッセージを文書として残した者たちと同じ権威を持っていました。その中には、ナタン、エリヤ、エリシャ、そして洗礼者ヨハネがいます。





聖書に記述（書巻）を残していない預言者を神が用いられるとは何と興味深いことでしょう。
なぜ、こうした正典に含まれていない預言者にも権威があるのでしょうか。

書き記されたメッセージ

主はモーセに言われた。「このことを文書に書き記して記念とし・・」 (出エジプト記 17:14a)

神がご自身のメッセージを文字として残すことを決めた理由には、どのようなものがあったのでしょうか。

- その出来事を記念するために（出 17:14）
- 私たちに教えるため（伝 12:10）
- 私たちに悔い改めを促すため（エレ 36:2-3）
- 私たちが倣うべき、あるいは退けるべき手本を示すため（1コリ 10：11）
- 私たちが未来を知ることができるように（黙1:19）



聖書の中で、預言者たちは自分自身の人間的な反応だけでなく、他の人々の反応も表現しています。聖書には、詩や歴史的記述、説教の記録などが含まれています。また、聖書以外の著者の言葉が引用されていたり、異教の王による布告が記されていたりすることもあります。

しかし、聖書において、霊感の度合いに差があるわけではありません。説教であれ、出来事であれ、あるいは預言であれ、聖書に記されていることはすべて神の霊感によるものであり、時代を超えて神のメッセージを私たちに忠実に伝えています（2テモ 3：16.17）。

出エジプト記**17:14**　主はモーセに言われた。「このこと を文書に書き記して
記念とし、また、ヨ シュアに読み聞かせよ。『わたしは、アマ レクの記憶を
天の下から完全にぬぐい去 る』と。」

ヨハネ**20:30**、**31**、このほかにも、イエスは弟子たちの 前で、多くのしるしを
なさったが、それは この書物に書かれていない。 これらのことが書かれたのは、
あ なたがたが、イエスは神の子メシアであ ると信じるためであり、
また、信じてイ エスの名により　命を受けるためである。

Ⅰコリント**10:11**、これらのことは前例として彼らに 起こったのです。
それが書き伝えられて いるのは、時の終わりに直面している
わ たしたちに警告するためなのです。

黙示録**1:19**　さあ、見たことを、今あることを、今 後起ころうと
していることを書き留めよ。

を読んで ください。

神が預言者たちに、ご自分がお与えになったメッセージを
書き記すように命じられたのは、どんな理由からでしたか。

劇、象徴、たとえ

わたしこそあなたの神、主。エジプトの地からあなたを導き上った。わたしは再びあなたを天幕に住まわせる／わたしがあなたと共にあった日々のように。
(ホセア 12:10)



劇

聖書には、歴史的な記述、格言、詩、あるいは演説に加え、劇や象徴、たとえ話を通して伝えられるメッセージも数多く含まれています。

エゼ 4:1-8.神はエゼキエルに、エルサレムの包囲と陥落を表すものとして、エルサレムの模型を作るよう求められた。

ホセア 1:2-9.神は、イスラエルの不忠実さを象徴させるため、ホセアに不貞な女性と結婚するよう命じられた。



王上20:37-42.ある預言者は、アハブの罪を戒めるために、別の預言者に自分を殴るよう求め、戦いで負傷したふりをした。

エレミヤ 13:1-11.神の命により、エレミヤは帯を買ってそれを隠した。その後、神は彼に、エルサレムの道徳的状態を示すためにその帯を取りに戻るよう告げた。









劇、象徴、たとえ

象徴

出 25：8　祭司たち、聖所、そしてその奉仕は、贖いの計画を詳細に説明するための象徴である。

黙 13:2『ダニエル書』と『ヨハネの黙示録』では、歴史的な現実を表すために（獣や角などの）象徴が用いられています。

ヨハ 15:1イエスは、光、ぶどうの木、良き羊飼いといった象徴を用いて、ご自身の使命を説明されました。











たとえ

イザ 5:1-7預言者たちは、人々に自分の霊的な状態について深く考えるよう促すために、たとえ話を用いました。

マタ 13:5　イエスは、霊的な真理を教えるために、たとえ話をふんだんに用いました。

今日、例えば、私たちがラオディキア（ラオデキヤ）的な状態にあることへの警告として、どんな比喩による表現が考えられるでしょうか(黙3:14～18参照)

3:14 ラオディキアにある教会の天使に こう書き送れ。『アーメンである方、誠実 で真実な証人、神に創造された万物の源 である方が、次のように言われる。**3:15**「わたしはあなたの行いを知ってい る。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであって ほしい。 **3:16** 熱くも冷たくもなく、なまぬるいの で、わたしはあなたを口から吐き出そう としている。 **3:17** あなたは、『わたしは金持ちだ。満ち 足りている。何一つ必要な物はない』と言っているが、自分が惨めな者、哀れな 者、貧しい者、目の見えない者、裸の者 であることが分かっていない。 **3:18** そこで、あなたに勧める。裕福にな るように、火で精錬された金をわたしか ら買うがよい。裸の恥をさらさないよう に、身に着ける白い衣を買い、また、見 えるようになるために、目に塗る薬を買 うがよい。

「聖書は単純に真理を説明し、どんな人の心の必要と
欲求にも答えることができるので、最高の教養ある人を
驚かせてひきつけると同時に、何の教養もない卑しい者
にも、救いの道を知らせることができるのです。 [...]
こうして階罪が明らかに示されていますから、誰でも
神に向かって悔い改め、主イエス・キリストを信じ、
神の定められた方法に従って救われるために進む道を
知ることができるのです。 [...] 聖書を研究すればする
ほど、それが生ける神のみ言葉であるという確信が
深められ、人間の理性は偉大なる神の啓示の前に
ひれ伏すほかないのです。」

EGホワイト (キリストへの道１２章)

付録：エレン・G・ホワイトにおける啓示と霊感



エレン・ホワイトは神からの霊感を受けていました。彼女の著作、生涯、そして宣教活動は、真の預言者のものでした。彼女は聖書の預言者たちと同じ霊感を持っていましたが、自身の著作を聖書と同等であるとは決して考えていませんでした。彼女は常に、聖書を権威ある、誤りのない神の啓示であると見なしていました。

彼女は、霊感の過程には神と人間との相互作用が関わっていることを認識していた。神はメッセージを伝え、その後、預言者はその神の指示を自らの言葉で伝えたのである。彼女は、人間の思考に対する神の霊感を、神の啓示と人間の経験との融合として理解していた。



彼女は、自分が伝えた人間の経験やコミュニケーションのすべてが、霊感によるものではなかったと指摘した。彼女の著作や体験、とりわけ書簡や日記を読み、それらと向き合う際には、この区別を念頭に置いておくことが重要である。

